

富山市中心市街地地区（I期）

（富山県富山市）

- 計画期間 平成16年度～平成20年度
- 面積 385ha
- 交付対象事業費 5,895百万円
- 市人口 421,890人（地区内人口20,160人）

ポイント 「富山市中心市街地活性化基本計画」に位置付けた、「公共交通の利便性の向上」、「賑わい拠点の創出」、「まちなか居住の推進」を3本柱とし、総合的な活性化施策を展開している。

地区概要 本地区は、富山駅周辺の商業地区と、百貨店などの商業施設が集積する西町・総曲輪地区の2つの商業核を有し、県庁や市役所、業務・文化施設などが立地する県都の都心地区（385ha）である。また、富山駅を中心に路面電車や鉄道、路線バスが放射状に運行されている。

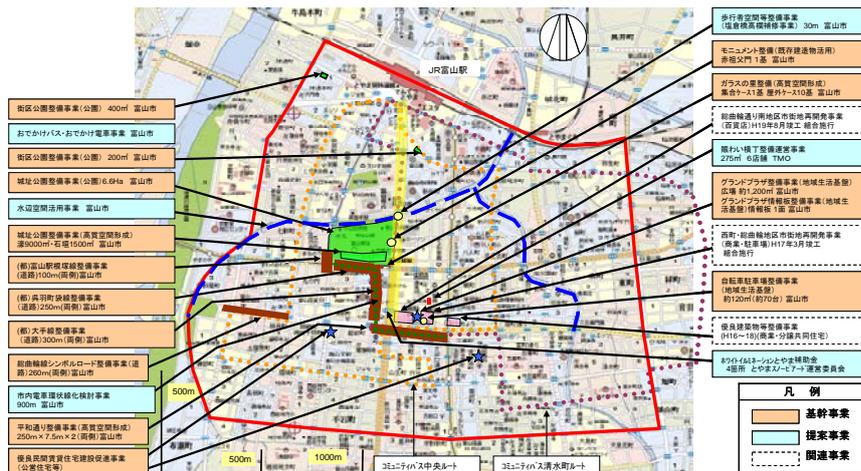
目標 中心市街地へ気軽に訪れ、回遊することができるよう、公共交通の利便性を向上させるとともに、来街者にとって魅力的で快適な都市空間を創出し、交流人口の増加や新たな商業施設の立地等による活性化を図る。また都心地区での居住を推進し、定住人口の増加を図る。

指標 「おでかけバス事業」など、公共交通の利便性向上による公共交通利用者の増加、また、「多目的広場（グランドプラザ）」や「にぎわい横丁」などの賑わい施設の整備による来街者の増加や商店の小売金額の増加を期待する。さらに地区内で優良賃貸住宅等の整備と都心居住への支援を行い、定住人口の増加を図る。

指標	従前値	評価値
対象地区の居住人口	21,020人 (H16)	20,672人 (H21)
コミュニティバスの年間利用者数	210,015人/年 (H14)	237,663人/年 (H22)
路面電車の乗降者数	10,066人/日 (H14)	10,251人/日 (H22)
対象地区の小売金額	948億円/年 (H14)	791億円/年 (H20) (推計値)
中心商店街の歩行者交通量 (旧富山西武南側)	9,205人/日 (H15)	6,232*人/日 (H21)
参考: 中心商店街の歩行者交通量 (総曲輪フェリオ北西側)	3,377人/日 (H18)	4,035人/日 (H22)

※H18.3月大型店舗閉鎖により歩行者数が大幅減少

事業内容 基幹事業（4,188百万円）→ 道路（延長990m）、公園（3箇所、6.6ha、600㎡）、地域生活基盤施設（グランドプラザ1,400㎡、自転車駐車場120㎡、他2施設）、高質空間形成施設（城址公園（壕）外3箇所）、既存建造物活用事業（赤祖父家表門移築）、公営住宅等整備事業（古鍛冶地町地区外4地区、67戸）
提案事業（1,707百万円）→ 地域創造支援事業（おでかけバス事業外15事業）、事業活用調査（城址公園整備事業外2事業）、まちづくり活動推進事業（賑わい横丁整備運営事業）



地区の現況と課題

本市の中心市街地は、都市機能の郊外化などを背景に来街者や居住人口が減少し、商業店舗の撤退など中心商業地としての魅力の低下が顕著である。また本地区で運行されている路面電車の利用者数も減少傾向である。

このため、路面電車を始めとする公共交通の利便性向上や、賑わい拠点の整備などによるまちの魅力向上により、交流人口や定住人口の増加を図るとともに、活発な経済活動などによるまちの再生・活性化が喫緊の課題である。

提案事業の特徴

おでかけバス事業・おでかけ電車事業

公共交通の利用促進による中心市街地への来街者の増加を図るとともに高齢者の足を確保し、社会参加を促すことで、中心市街地の活性化に寄与することを目的とする。

にぎわい横丁整備運営事業

中心商店街に飲食店が不足しているという市民の要望に応えるため、TMO である榎まちづくりとやまが事業主体となり整備され、中心市街地全体の賑わい創出に寄与している。

まちづくりの効果、持続的取り組み

公共交通の利便性の向上、グランドプラザやにぎわい横丁などの賑わい施設の整備や中心商業地区での景観整備を行った結果、コミュニティバスや路面電車の利用者が増加するとともに、中心商店街の一部エリアでは歩行者通行量が増加した。

グランドプラザにおいて、年間を通してイベント開催を支援するとともに、市民主体の組織「グランドプラザネットワーク」によるまちづくりセミナーの開催など、まちづくり活動が推進されている。

また、おでかけバス・おでかけ電車事業は公共交通利用者の拡大に有効であったため、制度の拡充を行っている。

森雅志 富山市長のコメント

本市では、人口減少などの都市の諸課題に対応するため、公共交通を軸にその沿線に都市機能を集約した「コンパクトなまちづくり」に取り組んでおり、本地区はその中心地区として、平成 19 年 2 月に「中心市街地活性化基本計画」全国第 1 号認定を受け、計画に位置付けた 27 の事業に取り組んでまいりました。

中でも路面電車の環状線化の検討やおでかけバス・おでかけ電車事業の推進、グランドプラザやにぎわい横丁などの整備、本地区内で優良賃貸住宅等の整備とまちなか居住への支援など、中心となる事業について「まちづくり交付金」を活用し、ハード事業、ソフト事業を一体的に展開してまいりました。

それらが実を結び、まちに賑わいが創出され、沈滞傾向にあった中心市街地の再開発の動きが活性化されたこと、市民が積極的にまちづくりに取り組む活動が広がっていることなど、大きな効果となって現れていることを喜ばしく思っています。

総曲輪フェリオ株式会社

代表取締役社長 五艘光洋氏のコメント

まちなかに総曲輪フェリオ・グランドプラザ広場のランドマークが完成し、LRTの環状線化・市民共同利用自転車（アヴィレ）と富山市の推進しているコンパクトなまちづくりとしてのハードは整いつつあります。まちづくりの次の一手は、正に商業者の意識改革と自らのアイデアでまちなかを楽しめる場所に変えていくことが求められていると思います。総曲輪フェリオの来店客数も、セントラムの運行開始以降、確実に増加がみられ、来街者のファンづくりを商店街と行政が協力し合い推進する事がまちの活性化につながると確信しています。

◆ 路面電車1日乗車人数



◆ 中心商店街歩行者通行量



◆ 中心市街地の人口



▲ にぎわい横丁外観



▲ グランドプラザ外観



▲ 市内電車環状線（セントラム）沿線の街路整備